



秘註
誹諧七部集
卷四

5
4514
1



門へ5
號 4514
卷 1

秘注部譜七部集卷之四



秘注部譜七部集卷之四

改二日扁文、誤カ原本、マ記之

亦のこゝに、けしけしきまらふか
二のりのこのくちをえん

花盛汁を繪まし物不足は体十は是は合ル物ナルを朝日下言留にて後今おせり也

旅人の風りきり春をきりし

後口附也首門傳也

いさしむるり太刀此靴 公羽

イヤニキ体ヲ轉ミタルナリ

昭和十一年
一月二十三日
購求

月夜を狂の内裏の司右 碩

○牛毛ノ習ハヌト言詞ヨリ猿鳥内裏ノ面影ナラシ

物白つるる 朽く あり 可やろ 水

○世ニ置言野ノ夜皇居トシテ兵糧ナリ言白トシテ附タリ夜ノ言ニ早業ハラキナリカノ

○イカニシテ早業ナリト意夜皇居故ト言意アレバ二方解ノ可言

鞆ニ出るこもれり 秋の影を 公解

○方作トナル故司右ノ附ルニ以テ如クアリニ歳助強執ニ有早業トキニソリ

ワカカシキ 秋の影を 碩

○駒ニ狂ニ秋ノ夜皇居トシテ早業トシテ二降替止雨言一ノ言ニ早業トキニソリ

入るる 雨夜の雨影の夜月影 水

○雨ノ降カレタルニ著ト是クセマノ外言ニ返下ナリト自ラカクハナリ

オも 春の影を 公解

○オノ意也ト返ニ日前夕ノ大勢ヲ中ノ人ヲ是タル附ナリ

さるるを 唯一なる 碩

○強情ナル山林トシテセム高キト言ニ唯ニカトナリキナリ

あま 秋の影を 水

○前夕勝手ナル語脈ニ意ニ情ノ節ニシタリ

物も 秋の影を 公解

戀著つと言 恋煩ト云其煩ト人知不唯病ト思テ物ク果カクシラサヨ附タリ

月をみれば 秋の 物多し 死 七あ 碩

物思フト言三月見しは白也袖重キ雨路ニセカク其ツラサハ涙ト白セタリ

秋風の 身をこころ 波のおと 水

前白女情姿 立をいひかへし 詞白セテ平家門西國落思可但貫之去依日記ノ

面影モアケシモ子餘情ニ言フナリ

鷹ゆき ちかお 子 松 翁

カラミダル所也秋の金と氣ヲ其色白故白子ト白也白子若松ハツキナリ

千部 誘花の 夢 一身 田 碩

名所 遺跡也 高田向 本山 傳修寺 跡トイフ 前白 翁

巡 花 水

前白ニキニキヲ 衣領タル所也 一身ト言ヨリ 一人巡禮 死名 榮ナリト可言

何 花の 現 翁 水

二方カラニセ蝶ハヨロモノニテ人間現存ヲ宣テ但後口附ナリ

心 書 水 碩

前ニキ蝶ノ他ヲヨミ空テ 恋病 女ノトナシタリ

羅 水

前白ノ自ラ他ヨリ 附 恋 雲トナシタル変化其人ノカクル人及ナキ官人セトイフナリ

鳥をよみし程に流石に
公将

カラミカ所也前句在女御の噂トミテ花山院熊野詣の面影ヲ附タリ但テ一章ナリ

よ来り紀の関守の榎下
碩

古語云境ヨ出テ言自由身ナラヌヲ返テトテ頑ナル関守ヲ附タリ但テ来リ紀トハ

来リトキト言シノ字ナラズ各ニシテ冠辞ナリ

海をよみし程に流石に
水

其人ノ他ニテカラミカニナリ

舞六のつと観く
公将

前句ノ噂ヲ其舞六會所トナシテトテ観クト言詞ニ意トテ宴會井ル風情有テ前句姿ヲ移ス

飯の持たし
碩

燈トミス内ノ者經テ附タリ但テ勝マテ托ガレハ假ラテトセタリ

中ノ小土
水

普請中ノ飯ノ持佛トテ土間トシタリ

おろしを里の
公将

前句ヲ放下シタル也トシテ二方カラミナリ

憎きとみ
碩

前句ノ目他ヨリタリ也是迄ナカリ人偏人情ヲ續キ名ニテテ其哉ヤ冬及テ是ヨリ送テ

キト言ヒ人ヲ捕テ送モキ引退ク城降込引連ク行ヨクエタリ古ノ骨浅カラサルヲ可見

月おくしあけりる 月夜 水

の満ち言葉テ月夜くニト毎夜くノ誦ノ白ヲ敷テ述トミタリ但老リ反言

むさくらをあまり招きくら拵て 翁

の月正々移リ更ニテ月夜くニト童子クル詞ヲ餘リ招ケバトミキテ晩秋セシキニウサレリ

只中方 翁

の前々世シニテ移ミタリ四方ナルトハヒガハカリノ庵也

一貫の残むつ 氷

の草庵ヲ京好カ極トス也氣好或ノ斗燈河法師許ヨリ錢借ニテアリヤル而影ニシ名也

豈同者の 翁

の寂ニテ井ルトニテ天年在クテヲ附クシ

ま 氷

の詠ニテ行脚ノ本意也ト此花散發ウノ花見ト言題ニ白ラカク附タリ

音 碩

のカタタルノ艱ヲ甚サルト言テ抗春ハ生テ夏星ニナル也

碩

碩

翁

の蕉門新譜ノ意味名目是ニテ鋪ト言ケルヲ珍碩ガ發クニ為テ其意味ヲ辨問ト也然ルニ翁曰何ノ

の月花言ふ別は附つ前句ノキセニヨカニテ春を言外ニテ長閑九月中心ヲ持クリ

生船 あつたぬ 浦の春の水

ニカラミテ一首ノ歌ノ如クニミシリ巻中曲常ノ可言

さの村の春を言 醫者のあつたりの 荷兮

の前句春哉ノ歎息ニシテヨリ醫者チカラケリト歎息ノ意ヲ附クリ

中家あつたぬハ 物識ト云フ 裁人

の邊鄙ノ人情ナリト云フハ物識ト云フハ裁人ト云フハ物識ト云フハ裁人ト云フハ

いふはあつたぬハ 匠屋もせぬは

の物識ト云フハ匠ノ身ノ上ヨリ言リ但井ノ内ノ蛙ト言ハセ

よくは 匠の海の 磯も

の前句孤獨ノ人トシテ上高方ナラズ酒ト言病者テサレハ速懐ト言愚痴者付ク

いふはあつたぬハ 秋の夕暮もあつた

の前句左近ノ人トシテ上高方ナラズ酒ト言病者テサレハ速懐ト言愚痴者付ク

あつたぬハ 山は 秋の

の遊也詠ヤルニ胸ホト見渡ニテ秋ノ夕暮ト云フハ物識ト云フハ裁人ト云フハ

温鈍チ 甲の 月の夜

の其場チカラ高方ニラズ酒ト言病者テサレハ速懐ト言愚痴者付ク

あつたぬハ 秋の 夕暮もあつた

の里ノスト言ヨリハ児ノ遊所ト定メ其里ノ人物ヲ言リ一勾ノ字ノ色ト縣出日黒ミテ

琴タリ但ウトシ冷カトミテ夏赤子ニ移ミタリ

珠ヲトヤマノ意也ハ立ト申ヨク

の鯉魚ト言ヨリ蘭セル顔向キミテ皆鯉魚ト言フ珠ト白セタリ

々々珠の知あるの縣持の忠疾

の珠トミヤノ歎息ヲ受テ山賊ノ年業都人モ及ヌ夫々珠盤持論ヲタリ

あまのあ減やととをををいひは海嶺

の僧トノ詞トミテトニホトハ辨タリノ意味ハ若可知トナリ

何ともせたりとるる物也

の其場ナガラミト出果シト言詞心ツクリニシル詞ナヲ棚ノ不意ガ落タルヲヒツクリニシツキ

言外ノカラミナリ

あまのあのをらしむるを笑ひ守

の物置ミシ藏ナドミテ人ノ住業ヲ思フ外餘リヒツクリニスキテヨカキナリタナリ

あまのあをりてあををさぬ別

の二万ニ意也逢ヨ顔ミヌトヨカキキナリ

汗のあををかしてあををいひ

の是モカラミテ二万ニ意也カル附市巻曲篇時宜依ベシ

あまのあをのこをいひ

○三芳ノ連ヲ散シ附ナリ

をまきりおの百人の倍を

了

○前月ニ大ツ子ル詞有ヨリ其詞ニキテ百ノ前ノ膳下ニシタリ

ト云ハ旅ともあはざる

旅

今

○前月ニ存勢ヲ太ニ誦トシテ具ニテニシテ人ニシテナリ

○城下ノ相當リ鉄炮ナガラ子鏡ニ換タル手殿威アリ都テ城下ニ火術ノ術者古ハ

鉄炮のきり音なりそるお月夜

野徑

○月朔ヨリ八月晦日限ルナリ

砂のおきの海をさくらん

里東

○火矢大筒ノ多シ濱邊ニテセテ乃セテハ海邊ノ砂地恩田ノ捨作瘦下ニシタリ

但鉄炮ノ音ノ大ナルニ來テト大小ノ意對ト言ヒ

西風ニます月のお貝拾りきそ

流土

○海邊トシタルヨリト來タ小貝ノ對テ取テトシテト意海ニヨセタ小貝ノ聲ヲ所リ

かはりさひらけぬひさるあま

乙刈

○蛋ニ拾タルト都テトシテイフセキ管屋ニ這入氣流銀ニエタリ但キタチカル体エリ

其心すのひ二人あまる辰明ふ

怨誰

○キタチニテモナイハ氣タルヲ當タヨリ前月エヨホセテ内者ニ遠慮ニテモナイハ氣タルト其意ナリ

秋の山吹のあめりつりつり 珠碩

○在勅長屋三子論トシテ夜着面が外ル侍ヲ附留リ

ゆきを心細針にたをまき 筆

○長局夜着面トシテ非情々良花人情ヲ加テ空録エタル鼓屏ヲトカレ意トカカテ哉

人ナカニナ憚リ非情々方ト為リ但執初春ノツヨク業ト為ル長謙譲ナリ

あのカチキキキキキキキキキキ 野経

○二月カラ三三時ヤ世良花トシテ引記ナリ

りかよ又川原集抄をよく見ええ 墨東



○前句ヲ瀆疾病人トシテ親ノ惜ノ今日ハ祇園アス清水ト連ル侍ニ為リ以原

○唯ハ祇園ノ下川原トシテ吐スルモ

都をたその 泥土

○其ノ新ナリトシテ方カラ三章トセシタリ

馬車石神を後をうらやま 乙別

○前句ヲ噂ヲ轉シタル所ナリ

ひと里をきり 怒誰

○前句ヲ氏子首性ノ詞トシテトシクニ言俤一里ヲソリテト言ニエタリ

足知らるる 泥土

○百姓見付ラレタル知識ノ自ナリ

そと世ハ海ニ向ト 切るヨモ 里東

○此句ナガラ前句ノ大徳哀レテ當句ニ至集テ二有一章ト爲ナリ

○雪ノ丹ニ至截レた女ノ寒ニさるニ 野徑

○前句ノ哀ニナル詞ヲ移シテ雪ノ丹ノ身ニ轉シタル凄也但前句言雪丹トツキ詞ナリ

冬ノ分ニつあくと下ノ浅ニ乙列

○前句ノ冬難キ親法事ナトカ不幸ナト行ト云香奥錢ト附タリ哉路ハ下首錢也

是ヲ首首ト信九十六首ヲ首首ト言但哉路ノ詞ハ非不首ノ詞也云二句

一章ナリ



○月むしり庄司を家と云ふは 珠碩

○村ノ集錢ト云テ月花ト月待日待トナリ

煮海ノ塩ノ味ノあまき 子ノ歎

○花見ノ辨當田附タリ但ニ高クニセト言塩カラキ、と云キ但首一章ノ体也

月もまろりつちも都忘らん 里東

○塩ノ辛キト言、口合又嚼リテ遠國エ行テノ思クク言リ大唐ニ藏法師天竺ニテ

○煩ニ時長各ノ陰ガ戀ニト位ニトカヤ

半もろりまろりの塩と注出寸 珠碩

○前句ヲ左近久自トニテ云ニ其嶋ニ流罪セラレたり坊主ルニ坊主ト云ニクニクニクニ詞ナリ

宗法ノ罪人ニヤ

香のついでに石海の雲のひらき 乙創

○附意不明也ト云フガハキヤセ

ナリキト云フガハキヤセ 野徑

○國政ノ層又作トシテ高時ノ比事ト云フガハキヤセ

時々ハ市街ノモノ鳥帽ノモノ 怨誰

○祭禮ノ所トシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

所所トシテトシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

○此祭禮ノ所トシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

夢身ハ一如幽霊トシテ流ルモノ 珠碩

○此言ト云フハ御座有トシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

連ルモノカトシテトシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

○此言ト云フハ御座有トシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

から風の大聖寺響吹透トシテ 野徑

○前々ト云フハ作ヲ格ナシテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

此のこころトシテトシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

○カテ風実ニカヨリト云フハ各殺リクムト云フハ但用ト云フハ大使トナリ

新剛トシテトシテテ附クモ也但鎌倉ト云フハ信ラ思ヒテ可クモ也但元ノ言附ト云フ

流土

の後口附、方一辨也

夕巴れ月子、菜飯喫出ず、怒誰

の中間、者トテ空腹、餘ニ食ヤリ、這出、臺所ノ棚、投ミテ、見喚出、前息

者、經の嗽、はきり、咳氣、摩、里東

の佛事、殘食トテ、夕、者、經、附、テ、入、盜、作、有、之、事、及、詞、ハ、禁、ナリ

四寸、い、左、の、尺、一、尺、際、珠、碩

の其、又、ニ、テ、者、經、ニ、老、リ、ナリ

髪、之、を、ま、枕、の、流、を、深、垂、一、乙、州

の後口附也、四十、美、文、ト、言、身、ガ、体、ヲ、附、テ、一、尺、一、寸、ト、シ、タ、リ

酔、と、ぬ、り、酔、を、吹、く、野、徑

の、子、ト、シ、テ、ト、言、ハ、酔、傳、ハ、味、ヲ、附、タ、リ

松、村、の、ま、い、ら、紫、ふ、雨、乞、つ、ま、怒、誰

の、前、口、ニ、涼、ニ、ケ、ル、存、首、ヨリ、直、後、花、ヲ、附、タ、リ、又、名、曲、席、也、遊、角、又、在、カ、モ、涼、ニ、ケ、テ、下、ニ、

田、の、片、隅、を、看、れ、云、々、一、派、土

の、雨、家、身、ト、思、テ、晴、天、心、元、ナ、ク、ハ、取、サ、シ、テ、言、名、ト、シ、テ、猶、若、葉、ハ、美、キ、苗、ハ、琴、ナ、キ、移、ナ、リ

雜

亀の甲、烹、ら、る、時、ハ、啼、も、せ、ん、乙、州

○此雜ノ句、隱見法ト云テ言外ノ冬ノ季也其故、藥喰ヲ用アリ寒ヲ防ガ使有也

言外ノ冬ノ季ト言、歌ニ毛ハ代トモ、あ、い、む、水、上、の、そ、う、以、出、事、の、そ、お、

是則冬ノ季ヲ隱シタル隱見ノ法也、儲、莊、子、余、長、也、耻、多、シ、ト、言、リ、氣、好、佳、徒

然、草、ニ、毛、言、リ、人、間、五、十、ヲ、定、命、シ、テ、七、十、八、古、來、稀、也、ト、言、然、ル、ル、卒、百、ト、夕、及、ク、余、ヲ、保

テ、カ、ヲ、死、ヲ、恐、ル、ル、至、テ、思、死、也、萬、年、壽、ヲ、保、ツ、ト、言、傳、エ、タ、ド、其、電、タ、言、ラ、ル、時、天、年

ト、惜、テ、ナ、キ、モ、モ、マ、テ、又、人、間、萬、物、靈、也、ト、シ、テ、死、生、ヲ、悟、ラ、ル、は、電、ニ、モ、方、リ、タ、ル、ト、言、テ、餘、情、ニ

テ、觀、想、ノ、風、諫、ナ、リ、*あきかぜのこゝろ*

唯、年、暮、リ、ゆ、の、ぬ、く、き、る

珠、碩

○服、分、ノ、電、者、ハ、日、天、野、人、住、徒、ト、シ、テ、年、飼、ハ、言、テ、年、盡、シ、テ、ク、ア、ニ、イ、タ、リ、但、年、盡、シ、風、吹、ミ、ハ、

非、石、蒼、蒼、言、木、枯、寒、キ、風、吹、音、ト、電、肉、ヲ、喰、フ、比、テ、言、外、附、タ、リ、但、内、心、情、リ、タ、ル

人、ノ、車、ヲ、言、リ、齊、宣、王、年、盡、ハ、風、吹、音、ヲ、聞、テ、死、生、ヲ、悟、リ、タ、ル、ヲ、ア、リ、カ、マ、ナ、リ、*あきかぜ*

百、情、の、あ、は、れ、あ、る、は、な、の、あ、る、里、東

○前、夕、十、月、木、枯、ト、シ、テ、木、綿、ニ、ニ、テ、附、タ、リ、但、年、盡、シ、百、情、ハ、移、ナ、リ、

あ、き、か、ぜ、の、ゆ、の、ぬ、く、き、る、秋、探、志

○附、意、ハ、意、明、也、秋、季、ヲ、移、シ、花、ハ、面、白、ニ、

獨、居、え、る、矣、の、あ、は、れ、あ、る、旅、の、月、昌、房

○前、夕、ノ、ニ、キ、テ、ナ、ル、ヲ、サ、シ、テ、シ、タル、変、化、ナ、リ、

幅、棉、さ、る、を、ま、く、る、し、概、正、秀

床こゝふ新を吹く、鳥の字書ス、誤ナリ依テ改之 昌房

○前句ニ思フ有テ意味言ト為テ其六味言聲トスカタル出テ向テ自ニタリ

浅入の小島松を月ゆかり 西之秀

○前句難讀ト言ヨリ他行ヲ俾テ辨ヲ但行ト言テ未明キラヌウスヲ顯シタリ

下も此家ももつゝゆる 海老巻 及肩

○月夜ヲカケテ行用事大難キ用也トテ都近ニ住所求テ行用ト為タリ但中京下京ハ

大ウタヒタルトイヌルハ、ウミルト具カヒキヤウスヲ秋マ、栗ニ白ハ地ウリサニ、鳥ノ聲ヲ用

念子、下もあつゝの母家の今草茶 野庭

○地名ヲ對稱ナリナヒニ中作テウカニモリクハ、鏡茶トシテ、高ニ白セタリ

雀ちしそりふ花のちりめ 二 嘯

○鳥海道ニ持行鷹鳥、餌鳥也米雀移リ鳥羽トシ、鷹鳥、餌鳥トカキテ、ハ、餌籠也

うしろをさるゝ、さんみりゝるあおを 乙 列

○是ラ前句ニカマズ唯鷹鳥、餌多ク用テ、霜月ト會釋シテ変化ト立トシタリ

碎、去、ちり、を、さ、る、の、せ、う、め、る 珍 碩

○霜ト言ヒ、比テ、記惜ニテ、餅、鼓、出、初、テ、言、昔、月、ト、言、リ、平、夜、修、行、ニ、テ、空、也、也、

未流ナリ

海より見たる海路の早急 軍東

○其人ノ姿也出ルル意ト詞トキ也但給、或、ニ、難、ニ、字、モ、ナ、リ、其、カ、先、難、ク、ナ、リ

指あひのさしとてそとに取あふの 揚志

の百二章ノテ鉾打ニ附ル意ニテ冬ノ子ヲツキタリノ意ニ從寛高影也鳥ノ残リニ
存ナリ

暗りり小葉葉籠のしを燃りついで昌房

の百二章ノテ同心坊高影ノ換骨ニテ庵室ノ作ナリ

侍るを吹る来りしりや

の前のヲ渡守ノ小葉ノ轉ニテ附ソリ其ノ自他ノト章ヲ為タリ可考

心りたる鏡ひらぬ抄紙及肩

の小船ノ呼タル意ニ龍川ニ西行ヲ切モタル面影有ニ般ノ字ニ毎ト云ナリ

水汲りのゆるい柳柳の秋 野徑

の御膳奉行ノ見申シテ竹葉ノ經ト附タリ鯉ノ流ニ私籠ヲ用ルコトヲ云ナリ

さしと切花の流りり風吹を二嘯

の水汲ルニ暑中ノ体アリ又生身魂ノ用ヲ思寄テ盆中ノコトヲ附タリ水極カシクノトキ也

奉かの序あしおのゝおる月 乙列

のボツトヨ言語ノ大體龍ノ体有トシテ守院ノ建立ニ趣ヲ附タリホカト月ト云キナリ

嗚物と味のしとて娘とれ 珍願

の建立ノ願主煩ヒタル言リホカト言ニ味ノ付キト云キナリ

里東

田野

唯そあや苗代氏の角大師 西秀

○唯角大師ヨシトウ五キ内及近江ニテ是、水口奈ノ彦也其國ニ依テテシク

○遠平ノ苗代ヲ祭ル也但苗ノ角組出ル角大師ノ祭有テ今ノ餘情ナリ

唯そあや苗代氏ノ御歌 珠碩

○苗代ノ御ヲ馬歎ヒテラサレ又咒ナレバニ野苗ヲ出シ

角左の御歌 唯そあや苗代氏ノ御歌

○前ノ長門ノ御ヲ御移シテ御祖ノ御太ノ御馬ニテ御歌ヲ取テラサレト在風ヲ友馬ニ知ス

非ノ唯春ノ心ヨキヨニ啼ト言フナリ 唯そあや苗代氏ノ御歌

唯そあや苗代氏ノ御歌 唯そあや苗代氏ノ御歌

○唯ノ御歌也ヨクノ言ニ御有カキキナリ

○月影ノ不利体ノ御歌ヲ言フナリ

○前ノ下ノ御有ヨリ物好ニ利体ヲ出シテ門ト言ニ皇カケト言ニ文字ヲ月歌

○讀ミタル御有ニナリ 唯そあや苗代氏ノ御歌

唯そあや苗代氏ノ御歌 唯そあや苗代氏ノ御歌

○月ニ昔ノ御更ニ皇カケ、自慢ノ御有ヨリモラハトハミタリ

唯そあや苗代氏ノ御歌 唯そあや苗代氏ノ御歌

○前ノ小字ノ御有ナレハ御移有アリテ御圖ヲ殿ニ取テラシクテラサレト言詞トカセ

行はし〜の本懐ありあやむ 碩

○字聲ヨリ暗キレトミテ下駄ヲ尋ルルラスヨ附テツレト言ニ物ノ破レ整ホル侍有

○日ノ正足ノ下ハ方キニモタリトテ言ハクハ物ノ破レ整ホル侍有

誓文をたるともきくも別路あり 秀

○誓文ノ言ヲキクトミテ猶尋ルト言ニ疑ヒ音ヲ記シ誓文ヲ立ル言リ

法をきくも侍 碩

○方カラミナリトテ言ハクハ物ノ破レ整ホル侍有

須磨のまじも物も用ひぬる意 秀

○知コト都立廷少タル哀レテ附テ愛化シタリ法須磨ノ言ナリ

狐のあはれもあはれもあはれ 碩

○清意の意明也

月をみる節をのこすの法 河

○狐ト言ヨリ節是ノ月ノ法キヲ極向ニテ猶銀河ノ法ニキヲ添タリ

まじりてもあはれもあはれもあはれ 碩

○前ノ冷ニキ作ヨリ城門ノ思可テ討死ノ雷ノ方ノ雨勸セルベニナリ言タルト

○言々ノ極アリトテ言ハクハ物ノ破レ整ホル侍有

さらぬとて大極あはれもあはれ 秀

○獨子ヲ先多ク男ト稱シテ讓ヘテ者ニナシトテ言意ヨリナクテ言詞ニ聞コタリ

獨あはるる子も短難ふ換るる 碩

○放勳の子も勳當ニテ大脇差讓ルベキ者ナリト執守ニテ附句ハ短難ニハ
若リタルト言フ也但万一意ノ附方ナリ

江ノ海をもも候ふもあはるる 秀

○前句連懷アルトテ邊鄙引込居ル作ヲ言フ

あいのゆ弾もまのいろ 令

○花見ノ酒宴ナリテ乱舞ノ体ヲ相ノ山トシテウカエ合ラズ弦ノヒク聲ニタリ但入相
ノ熟醉ノ趣

空を飛ぶ里の煙臺はちかぢら 碩

○春ノ相言長閑ナル雲雀ノ會釋ニ實ノ相ナシクテ其場ノ村里ヲ附ナリ

火をともすはちかぢら 秀

○苗代時ノマ薰ヲ運任ニ家内出拂エラ留守ノ作ナリ

本必まのすもあはるる 碩

○附意ノ意明也

西條橋の袂もあはるる 秀

○前句兵乱焼タテ再建ノ小堂ニテ法皇皇后御幸ニテ聖カク作ラ附ナリ

さきもあはるる人のあはるる 碩

○前句泣テ凡情アルヲ虫笛ヲ痛テ聴ミ泣クニテ西サニ轉シ名曲節可味

くすまをたしむむ芒の穂をきり

○此詩、述るニシテ痛ト言ミ瘦タリト云カセテ一画、移リニテ冬雪ト云リ

糸繰垣に窓を紙燭を挿す置

○此詩、則テ下ノ場ト定ムル所也。藤垣垣字ハ呂イカクノコカクト云ルカキテ編ノ字ヲ書テ

利黄世に戸閉

は上采あかしのほの町

○此詩、燭ヲ用テ字ヲ用ニテ客ヲ送リタル事ヲ示シテ石ノ客ノ姿ナリ

さるさかふ少来算の草

○此詩、銀ノ中ニ来ル人ニ行其金言他日言リ

秋入るあすの肥後の越

○大坂ノ藏、吭ト云ハ船能存米所ナリ

あし路にのりて月をる後者

○西國ノ豊化ト云ハ此詩、居ルナリ

すなをみるあすのあそび

○大坂ノイノリヲ獨ヤウニシテ、此ト云ハ、物不都合ヨリ旅ヤセニ行作スノ字ト云ミ

治めぬるめ

○此詩、若ク時ヲ獨ヲ澤ト云詞ノ働セリ、但シメハ、居眠ノ焼ドク根ナルカ

沼のほとりも 橋を 仰ぐ

の橋を尋ねず言附ラレテリトシテ猶猶モルノト枕名モアルニ但ニ月カラミナリ

子規 西小人所の 可あこり 碩

の碎歩行ト言尋ニ意ヲ時馬ノ愛テ其場明也

や 日の 相不 夢

の其場ニ使ニ手雨上ニ明言詞内ナリ

あはれ 志ニ 夢

の以明言下若ニ初リ有テ散ニ終有ニ始終意對也雪駄引ズルニ長閑ノ白ナリ

北野の 馬場 夢

の雪駄引ツル音ト言ニ石高止作ノ道ナルヨリ洛ノ地名ヲ思寄北野馬場トハ

言リ但テ花ノ風情有ヨリ馬場ノアミライ白ナリ

秘注俳諧七部集卷之四 終

